

Ⅰ. 緑肥栽培の「ほ場作り」から「すき込み」まで！

(1) ほ場作り: 表土の耕起

- 前作の収穫が終わり次第、迅速にほ場の準備をしましょう。
- ロータリやチゼルプラウなどで、前作残渣を混和し表土を露出させることが重要です。



ロータリによる耕起

(2) は種作業: 肥料は必須

- ドリルでもは種は可能ですが、ブロードキャストを用いたは種では、事前に種子と肥料を混和しましょう。
- 表面は種になるため、表層混和と鎮圧をしましょう。



肥料と緑肥種子はよく混和



ブロードキャストによるは種



ケンブリッジローラによる鎮圧

(3) すき込み: 丁寧にすき込む

- すき込み時期に達したら、ストローチョップで細断し早めにすき込みましょう。



ストローチョップで細断



プラウで深くすき込む



ロータリですき込み後、1週間後に再度混和して腐熟促進

腐熟期間は1ヶ月確保すれば次作物の生育を阻害しないね！



II. 緑肥導入のススメ

緑肥とは土壌を肥沃化する目的で栽培され、有機物の補給、連作による病害回避につながり増収及び品質向上を実現させます。

- 排水性・保水性が悪い
- 肥料持ちが良くない
- 気象条件に左右されやすい
- 土壌病害虫が発生している

以上のような悩みのある方は緑肥特性を確認し、ほ場にあった導入をおススメします。

【イネ科】えん麦・えん麦野生種

【アブラナ科】シロカラシ・チャガラシ

【キク科】ひまわり

【イネ科】ソルガム

【マメ科】ヘアリーベッチ

【マメ科】アカクローバ

【マメ科】クリムソンクローバ

【イネ科】 えん麦・えん麦野生種

えん麦 は種量：15～20kg 施肥量：N 4～6kg P 5～10kg K 0～5kg
 えん麦野生種 は種量：10～15kg 施肥量：N 5 kg P 5 kg K 0～5kg
 (すべて10a当たり)

緑肥名	栽培区分	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
えん麦・ えん麦野生種	後作緑肥													○	○							☆	
	前作または 休閑緑肥					○					○												☆

○—○：は種期 ☆：すき込み期

(1) 作物の特徴と作付効果

- ・後作か春まきの短期休閑として用いる。
- ・多収を狙うには8月中旬までには種する。
- ・発芽、初期生育が良好で、収量性に優れ、粗大有機物の確保が可能。
- ・耐倒伏性品種は隔離作物※1として利用できる。



写真1 えん麦野生種

(2) 栽培上のポイント！

- ・すき込みは出穂始頃に実施する。
- ・『えん麦野生種』は、『えん麦』よりも生育旺盛で出穂が遅いため、多収になりやすい。

(3) 病害虫に関するポイント！

【線虫対策】

- ・『えん麦野生種』は、キタネグサレセンチュウの密度を抑制する。抑制効果は品種により機能性が異なるため確認が必要である。

【病害対策】

- ・『えん麦野生種』はジャガイモそうか病、アズキ落葉病、アブラナ科根こぶ病の被害を軽減させる効果がある。

(4) こんな時は注意！

- ・『えん麦』はネグサレセンチュウ類の密度を抑制できないため、後作物の選定に注意する。

黄色い花が景観美化に有効！

【アブラナ科】 シロカラシ・チャガラシ

シロカラシ は種量：2～3 kg 施肥量：N 5～8kg P 5～10kg K 0～7kg
 チャガラシ は種量：1～1.5kg 施肥量：N 8～10kg P 5～10kg K 0～7kg
 (すべて10a当たり)

緑肥名	栽培区分	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月				
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
シロカラシ	後作緑肥													○								☆		
	前作または 休閑緑肥					○					○			☆										☆
チャガラシ	後作緑肥													○										☆
	前作または 休閑緑肥					○					○			☆										☆

○—○：は種期 ☆：すき込み期

(1) 作物の特徴と作付効果

- ・後作か春まきの短期休閑として用いる。
- ・黄色い花が景観美化に有効である。



写真2 シロカラシ

(2) 栽培上のポイント！

【は種】

- ・覆土は浅めが望ましい。特に『チャガラシ』は、は種後に鎮圧を行うと出芽が揃う。

【すき込み方法】

『シロカラシ』

- ・開花後10～20日を目安にプラウで直接すき込む。

『チャガラシ』

- ・くん蒸作用を得るため、着蕾期～開花始めの茎葉が最も多い時期に、細断しロータリ等ですき込む（またはロータリ2回かけ）。細断直後に分解が始まるため、できるだけ早くすき込む。水分の多い条件で有効成分のガス化が促進される。

(3) 病害虫に関するポイント！

- ・『チャガラシ』は、辛味成分のくん蒸作用（図3）で病害抑制効果がある。テンサイ根腐病、コムギ立枯病の軽減効果が確認されている。

(4) こんな時は注意！

- ・根こぶ病やアブラナ科作物の害虫による加害を受けやすいため、近隣ほ場にアブラナ科野菜がある場合は作付けを避ける。

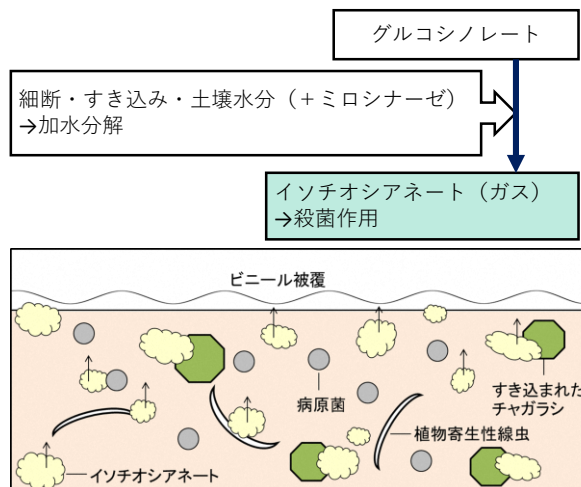


図3 辛味成分のくん蒸作用(雪印種苗原図一部改変)